

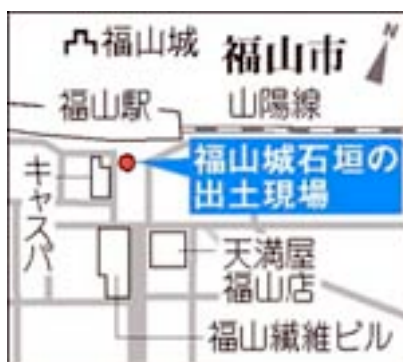
▽市教委、試掘調査始める

福山市のJR福山駅南口周辺整備を受けて市教委は二十一日、事業計画地近くの試掘調査を始めた。試掘初日に、福山城の外堀とみられる石垣の一部が出土した。市教委は調査を約一週間続けて石垣の位置、深さなどを確認。今後の事業計画や遺構保存などの検討材料とする。

試掘は、駅前大通り西側に面した広場の一角（仮自転車駐輪場）で実施した。外堀の最上部が地下〇・五メートル前後で見つかり、東西三十メートルにわたって積まれた石垣（高さ二メートル前後）が出土した。



市教委文化課によると、福山城三之丸追手御門付近にあった外堀の一部とみられる。二十二日以降は、深さ四メートル前後まで掘り進め、石垣の基礎部分である根石の位置などを確認する。さらに三之丸にあったとみられる家老屋敷跡などの遺構も調べる予定でいる。



試掘調査は、市が本年度から着手する地下送迎場などの駅前広場整備事業に伴い、実施した。市教委文化課は「古地図などから予想していたよりも、外堀の位置は二、三メートル北側にずれていた」と説明。調査結果を受け、今後の工事計画への影響や、遺構の保存方法について分析・検討する。

駅南口周辺整備に伴う福山城の関連遺構の保存については、市文化財保護審議会が近く、会としての考えを文書で市に示す方針。一方で、羽田皓市長は、できるだけ計画変更を伴わない保存、活用を探る方針を明らかにしている。（古川竜彦）

【写真説明】 福山駅南口周辺整備に伴う試掘調査で見つかった福山城の石垣

石垣崩れ40年 福山城跡復元始動

'06/8/19

福山市教委は近く、国史跡「福山城跡」の本格的な整備に向け、計画策定を担う検討委員会の準備会を発足させる。城下町・福山のシンボルである城の石垣の一部は、四十年以上前に崩落し放置されてきた。その石垣は準備会発足により、ようやく復元への一歩を踏み出すことになる。（古川竜彦）

崩落しているのは、天守閣の西南に位置する二之丸の石垣の一部。断続的に幅二百メートル以上にわたり崩れ、落ちた石は周囲に野積みされている。市教委によると、一九六四年に城跡（約三万三千平方メートル）が国史跡に指定された際、既に一部は崩れていた。しかし、崩落に関する記録はなく、野積みの中には城の周辺整備で出土した石も含まれているという。



市教委が年内に発足させる準備会は、近世史や城郭建築などの専門家ら学識経験者で構成。崩落している石垣や関連遺構について調べ、復元に向けた課題を整理する。さらに伏見櫓（やぐら）や筋鉄御門（すじがねごもん）（いずれも国重要文化財）など文化財の保存状況も把握する。

続いて市教委は二〇〇七年度にも、準備会のメンバーを中心に正式な検討委員会を設置。福山城跡の全体整備計画策定に入る予定でいる。

福山城は一六二二年、初代福山藩主の水野勝成によって築城された。天守閣は一九三一年に国宝に指定されたが、四五年の空襲で焼失。伏見櫓などは戦災を免れた。市は六六年、市制施行五十周年記念事業として天守閣や月見櫓などを再建した。しかし、文化財としての史跡整備は未着手のままとなっていた。

石垣の復元などを四十年余も棚上げしてきた点について市教委文化課は「天守閣などを除き、城の全景写真や実測図などの資料が戦災などで焼失し、原型を復元するような計画策定が困難だった」と説明する。

一方で文化庁は最近、文化財保護の観点から安易な現状変更に歯止めを掛けてきた姿勢を軟化させた。「適切な調査、検討作業を経た現状変更の計画ならば、審議対象となる」（記念物課）としている。こうした動きを受け市教委は、福山城跡の整備計画策定に乗り出すことを決めた。

【写真説明】 崩れたままとなっている福山城二之丸の石垣。右奥は伏見櫓（撮影・天畠智則）